里山環境保全は第３ステージへ！

天覧山の麓にある約 1,400 ㎡のミニ里山を、てんたの会がナショナル・トラスト運動により取得したのですが、その場所での里山環境保全の作業には誰でも参加できます。昨年 12 月に、そのトラスト地で藪刈り作業イベントを行いましたが、とても良い PR となりました。

埼玉県では、昨年から定年後の人生を地域社会参加につなげ、健康寿命を延ばし地域を元気にしようという取組が、知事の肝入りで行われています。その越旨に叶う活動のひとつとして、藪刈り作業イベントに県共助社会づくり課が参加し取材してくれたのです。その様子は県制作動画としてユーチューブで配信（https://youtu.be/wVM8YwJbu5A）されています。是非ご覧になってください。きっと参加してみたいなと思われるに違いありません。現在、その藪が刈り取られ明るくなりました。やませみ 75 号（前々号）でこの場所（東谷津ほとけどじょうの里トラスト２号地）の将来予想図の夢を描いてみましたが、それを形にしていくために、人力、費用、広報などこれまで蓄積してきた実績を元に一つひとつクリアしていきたいと思っています。

「開発から森を守る」でスタートした当会の活動でしたが、それは第１ステージとしての試練でした。10 年後に開発計画が中止となり、その後「共に森を育てる」へと活動を転換して行くのに当たり、**地道な活動の継続**と言う試練を乗り越えてきたのが第２ステージと言えます。23 年経った今日、当会の大きな目的である「天覧山・多峯主山を中心とした自然環境を後世に伝えていく」を具体的に示していく「場」が整い、形にしていく第３ステージを迎えています。

これを実現していくためのカギとして「子育てファミリー」の参加が重要で、その活動も少しずつ始まって来ていることに期待をしています。それとシニアと呼ばれる定年以後の世代も、埼玉県が進めている「地域デビューを楽しむ」取り組みの通り人生１００歳と考えると、大きな人的戦力となるはずです。

自然とかけ離れた都会での生活にどっぷり浸かってしまった大人たち世代に、のんびり一日ゆっくりと里山で過ごすことの贅沢を知って頂きたい。また、子ども達にはカエルやトンボなどの生き物が棲む里山で遊ぶ愉しさを体感してほしいと思うのです。

さあ！あなたもこの里山環境保全の第３ステージに乗ってみませんか。

てんたの会　代表　浅野正敏

笹やぶ刈り里山づくり

飯能のNPO 新たなトラスト地で

新しい里山づくりを掲げているNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会（通称てんたの会、浅野正敏代表）は10日、飯能市の東谷津トラスト地で会員ら約30人が参加して笹やぶ刈りを行った。（小林義治）

てんたの会は、企業、行政、市民と協働の関係を築き、かけがえのない天覧山・多峯主山の自然を後世にいつまでも残していこうと、1995年に発足。現在会員は約180人。谷津田跡の湿地の再生、ビオトープ造り、自然観察などの活動を展開している。

トラスト地は、天覧山麓の裏側にある里山で、2009年にナショナル・トラスト運動によって取得した約600平方の土地。てんたの会の活動拠点で、通称「ほとけどじょうの里」と呼ばれている。この日は、今年取得した同所に隣接、県が発足させた地域デビュー楽しみ隊のメンバーで、同会の活動をシニア向けに広報発信している。

「この場所は里山の入口で気軽に里山づくりが楽しめる。里山保全は楽しむことから始めないと続かない。ここでゆっくり流れる時間を体感してほしい」と参加を呼び掛けている。

笹やぶ刈りに精を出すてんたの会の浅野正敏代表（右）ら＝飯能市の東谷津トラスト2号地

浅野代表は、県が発足させた地域デビュー楽しみ隊のメンバーで、同会の活動をシニア向けに広報発信している。「この場所は里山の入口で気軽に里山づくりが楽しめる。里山保全は楽しむことから始めないと続かない。ここでゆっくり流れる時間を体感してほしい」と参加を呼び掛けている。

「平成29年12月13日　埼玉新聞」掲載記事